

# 会報

No. 59

平成14(2002)年11月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9  
京都府立図書館内  
TEL (075)762-4655

## 旅先で図書館を想う

亀岡市立図書館 田川 幸男

日頃、図書館の運営にあたり、市民への図書サービスについて、いろいろな機能の充実をするつもりですが、予算面などの制約のなか、どうしても需要の多いサービスに重点を置きがちになるなど悩みの尽きないところです。

そんななかで、私的にはありませんが、イタリアを旅することがあり、その時の旅先で感じたことを、少し思い出してみました。

この時の旅は、ミラノから北イタリア地方を巡ってみようと、関心のある街を予定もなしに出かけました。このなかで、訪れた先の街に着いて「とりあえず寄ってみようか」くらいの気持ちで訪れた図書館の中で、印象に残った二つの街にある図書館を紹介します。

一つは、北イタリアのリグリア海岸沿いの音楽祭とカジノがあるリゾート地であるサンレモの街の市立図書館です。この街は普段は人口二万人くらいの小さな街ですが、フランスに近く、冬でも気候の温暖なことから海外からの観光客も多いところがあります。

この街の図書館は外見の建物は伝統ある建物ですが、内部の資料室は多くのコンピュータが導入されており、明るく近代的なサロンといった閲覧室もあり、カジュアルな雰囲気でした。また、併設して州の図書館もあり、調査研究のための資料もたくさんあるようです。

もう一つは、イタリア国境近くのスイス湖畔のルガーノの街の州立図書館です。この街も長野県の諏訪湖畔のようなリゾート地でもあり、観光客も夏には多く訪れます。

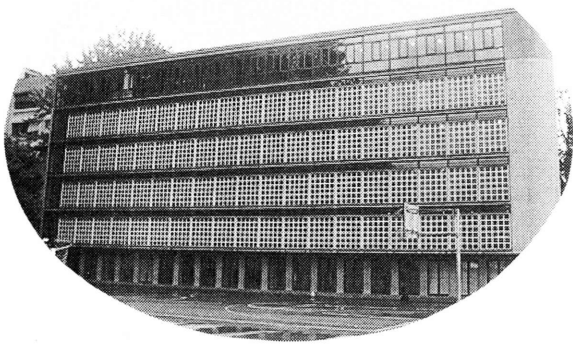
この建物は一九四〇年建設当時は斬新なデザインとして有名で、ル・コルビジエなどを研究する多くの建築関係の学生が訪れるそうです。ここは十六世紀の修道院の書物を引き継いで現在に至っているようで、たくさん未整理の資料があるようです。そのころの世界地図が印刷された資料を見せていただきましたが、保存状態もよく美しい印刷で「ジ・パンダ」と記されていました。

こんなふうに、古いものと新しいものが共存して残っているアンバランスさが、ヨーロッパの都市の魅力

となっていることの一つでしょう。また、どちらもその地域の作家の著作物や地域を紹介する世界で発刊されている資料を収集しています。

その時感じたことは、これらの図書館では地域の知的財産を引き継いでいることと、世界中から訪れる人々へのホスピタリティとして国際的に地域の資源の紹介・普及に努力している姿は誇りに満ちていてすばらしいと感じたものです。

このことは、公立図書館の運営においても、その役割を見直し機能充実を考えるうえで、あらためて郷土資料コーナーなどの整備を考えるヒントとなり、大いに励まされました。



ルガーノにある州立図書館

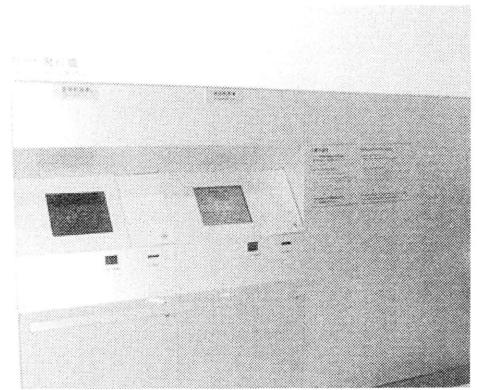
## 国立国会図書館関西館見学記

十月五日、国立国会図書館関西館（精華町）で開館の記念式典があり、十月七日にはいよいよ一般利用が始まりました。オープン初日には、見学のみを含めた一九八四人の来館があったそうです。関西館は地上四階、地下四階建てで、メインは地下一階の総合閲覧室とアジア情報室です。

地上一階は利用者入口、研修室等で、地上二階・三階は事務室、地下二階から四階は書庫で、約六〇〇万冊を収蔵します。

利用者は北側の正面入口（精華大通りに面した中央付近）から入り、階段を降りた地下一階左手のカード発行機で入館手続きをします。銀行のATMのようにタッチパネルで必要事項（氏名・生年月日・電話番号・住所）を入力し、当日のみ有効の館内利用カードを発行します（入力は日本語と英語）。館内利用カードは、資料の検索や請求、複写及び複写料金の清算等に必要ですので、くれぐれも紛失・破損しないように御注意ください。

持込できないものは、B5以上の不透明な袋物（カバン・紙袋・封筒）、傘（利用者入口と一階ロッカー室にある傘立てを利用）、音響機器（ヘッ



利用カード発行機

ドホンステレオ・ラジオ等）、コピー機器、カメラ、スキャナー、インク瓶、刃物・ハサミ・カッター、危険物等です。これらは、エレベーター付近にあるロッカー（百円コイン式で使用後に返却）に入れ、貴重品やメモ等最低限の荷物は、用意された透明ビニール袋に入れます。

携帯電話は、館内では着信音等を切り、通話は閲覧室以外でとのこと。また、パソコン等の機器は、閲覧室の持ち込み機器使用席（電源使用可）で利用できます（入退館カウンターで御相談ください）。

閲覧室への入館は、駅の自動改札のような機械のガラスの部分に館内利用カードをペタッと貼り付けると、ゲートが開いて中に入れます。

総合閲覧室には、アジア地域以外の各参考図書、抄録・索引誌、国内

の官庁出版物・法令議会資料、図書館情報学資料、主要な雑誌、関西圏の各地方新聞や全国の一部の地方紙等が開架されています。また、アジア情報室には、アジア（中央・北アフリカを含み、日本を除く）に関する参考図書、雑誌、新聞等が開架されています。

資料検索は、閲覧室にあるNDL-OPAC（オンライン目録）で行います。資料が見つかったらオンラインで申し込み、到着案内ディスプレイに受取先カウンター名と館内利用カード番号が表示されます（NDL-OPACの「到着・発送情報」画面でも確認できます）。館内利用カードを持って貸出・返却カウンターまたはアジアカウンターで資料を受け取り、利用が終わったら、資料と館内利用カードを持ってカウンターへ返却します。

複写は、セルフ複写（自分で複写）、即日複写、後日来館複写、後日郵送複写、オンライン複写の五つの方法で申し込めます。

利用者登録については、氏名・住所・年齢を証明するため、免許証・保険証・パスポート・学生証・住民票等の書類が必要で、登録申請が認められましたら、利用者ID・パスワード等を記入した「登録証」及び「登録利用カード」が後日郵送にて送られてきます。申請は郵送でも申し込めます。

退館せずに入退館カウンターの左側を進んでいき、エレベーターで地上四階へ行くと、軽食やコーヒーが楽しめるカフェテリア（セルフサービス）、喫煙室、自動販売機、売店等があります。

退館手続きは、閲覧した資料をすべて返却し、入退館カウンターで複写料金を精算した上で、館内利用カードを閲覧ゲートに差し込んで退館します。カードは自動的に回収され、資料の未返却や複写料金が未清算の場合は、ゲートが開きません。また、忘れ物については、防災センター（西口）（電話〇七七四一九八一―二九〇）にお問合せください。  
(<http://www.ndl.go.jp/jp/service/kansai/index.html>) 詳しい交通・利用時間、休館日等の案内があります。



閲覧室の様子

# 京都市図書館の コンピュータシステムを再構築

京都市では、平成九年度から十八図書館のコンピュータネットワーク「京（みやこ）・ライブラリーネットワーク」を五年計画で推進し、昨年十一月には全館のネットワーク化が完了しました。これにより、利用者は、どの図書館からでも全館の蔵書情報を検索することができ、また、どの館の資料についても、予約・取寄せ・貸出・返却の対応ができるようになっていきます。

このたび、利用者サービスの一層の向上を図るため、全館のコンピュータシステムを再構築し、十月九日から五館を稼働、翌十日からは十四館を加えて全市十九図書館で新システムが稼働しました。

新システムの目玉として、専用の光ケーブル敷設によるシステム全体の処理速度の向上やインターネットによる図書館情報の発信などがあげられます。以下に生まれ変わった京都市図書館の新しく始めたサービスの主な内容を御紹介します。

## 1 図書館資料の貸出数は、各図書

館一人五冊以内から、京都市図書館全館で十冊以内（うち視聴覚資料は二点以内）、二週間までに変わりました。また、障害のある方への特別貸出は、全館で一人二十冊以内（うち視聴覚資料は四点以内）一か月までになりました。

2 新たに京都市図書館ホームページ「おこしやす京都市図書館へ」を立ち上げ、全館の蔵書情報（書名、著者名、所蔵館名、貸出状況）をインターネット経由で各家庭のパソコンや携帯電話（iモードのみの対応です）から検索できるようになりました。ただし、携帯電話の場合は、貸出状況は表示されません。

3 こどもみらい館子育て図書館及び移動図書館とのネットワーク化を実施しました。

4 中央図書館に設置したサーバと各図書館を結ぶ通信回線を光ケーブルによる専用線とし、高速・大容量の通信環境を整備することで、業務用端末だけでなく、OPAC（図書検索機）の検索スピードも飛躍的に向上しました。

## 1 図書館資料の貸出数は、各図書

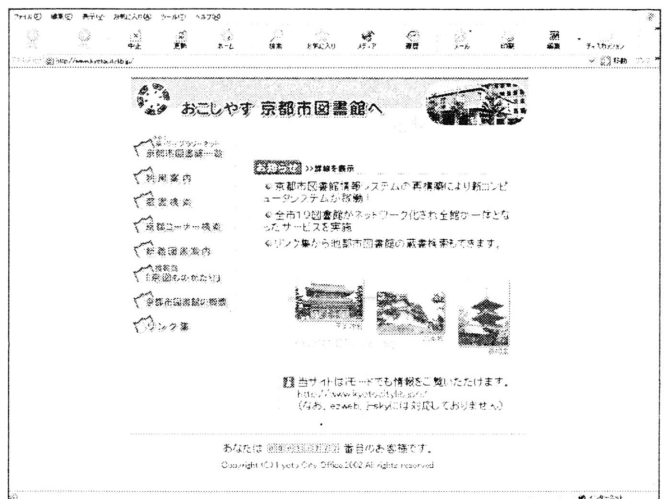
5 従来のOPACに加えて、インターネットに接続したWebOPACを設置し、府立図書館をはじめとして、府下の各図書館、近畿の各府県立図書館、指定都市立図書館、国立国会図書館などの蔵書検索もできるようになりました。

6 OPACの検索結果を出力できるプリンタを設置しました。

7 全館にCD-ROMの検索ができるパソコンを配備しました。

8 貸出カウンタに、現在貸出しを受けている資料の一覧を印字したレシートを交付できるプリンタを設置しました。

稼働後の利用者の反応は、当初戸惑う様子も見られましたが、今では大変便利になったと好評を得ています。資料の予約をする場合にインターネットで調べてから来館する方もあつて、蔵書情報をはじめとする様々な



京都市図書館ホームページ  
<http://www.kyotocitylib.jp/>  
 iモード  
<http://www.kyotocitylib.jp/i/>

図書館に関する情報が家庭に居ながらに見られることの効果がいくに大きいかを実感しています。

この他にも、全市十九図書館が一体となって、御利用いただく皆様に愛され親しまれる図書館、より利用しやすい図書館づくりをめざして様々なサービスに努めています。

最後になりましたが、「おこしやす京都市図書館へ」に一度アクセスしてみてください。また、御覧になったの御意見や御感想なども寄せていただけると幸いです。

## ◎ 相互協力委員会

平成十四年度第一回相互協力委員会を九月二十日(金)午後一時三十分から府立図書館で開催し、八月一日からK-L i b n e tに付加されたメッセージ機能(メール)についての運用方法等が協議された。

メッセージの件名には、「レファレンス」、「リクエスト」等の内容を端的に表す件名をつけることになった。また、五百字の文字制限の緩和、ファイルが添付できるようにとの要望が出されたが、ファイルの添付については、セキュリティ上の問題から、対応できない旨の説明がなされた。

京都市中央図書館からは、十月九日からホームページ上でWeb O P A Cを公開し、全市十九館の蔵書検索が可能になるとの報告があった。

これにより、府立への検索依頼を経なくとも、所蔵館に直接申し込む事ができるが、京都市への相互貸借は当面従来通りとし、公開一ヶ月程の状況を見て、十一月中旬に開催予定の第二回相互協力委員会において運用上の問題点等を整理した後、実務担当者会議を開催し、さらに詳しい協議を重ねる事となった。

## ◎ 研修研究委員会

平成十四年十月十七日(木)、十八日(金)、三十日(水)に、それぞれ文化パルク城陽、ガレリアかめおか、みやづ歴史の館において、南部、中部、北部の第二回研修研究委員会を開催しました。

主な議題は、京都府子ども読書活動指導者研修会の開催要項、当日の役割分担等についてで、協議の結果、以下のとおりと同研究会を開催することになりましたので、皆さん、ふるって御参加ください。

## 日時及び場所

## 南部会場

平成十四年十一月二十七日(水)

文化パルク城陽 4F大会議室

## 中部会場

平成十四年十二月六日(金)

ガレリアかめおか 2F大広間5

## 北部会場

平成十四年十二月十二日(木)

(前号でお知らせした日時が変更になっておりますので、御注意ください)

みやづ歴史の館 3F 大会議室

## プログラム

十時二十分～十時三十分 開会行事

十時三十分～十二時

講演「子どもの成長・発達と本」

十二時～十三時 休憩

十三時～十五時三十分

講義及び実技指導

「ブックトーク」講習会

## 講師

南部会場 講演 梓加依(長崎青海)

先生/講義・実技指導 北畑博子

先生

中部会場 講演 岩崎れい先生/

講義・実技指導 北畑 博子先生

北部会場 講演 梓加依(長崎青海)

先生/講義・実技指導 梓加依

(長崎青海)先生

## ◎ 広報委員会

平成十四年度第二回広報委員会を十月十一日(金)に府立図書館で開催し、会報第五十九号の編集について協議を行いました。

今号のトップには、亀岡市立図書館田川館長のイタリア図書館紀行文をお願いしました。今までは少し雰囲気の違いものになりましたが、とても興味深く、また、楽しい内容となり、お忙しい中お世話になりました。

した田川館長には、委員一同深く感謝しております。

みなさんの情報交換の場として、会報がその一助になればと考えていますので、皆様からの御意見、ニュース提供など、どんどんお寄せください。お待ちしております。

## 「お詫びと訂正」

前号に間違いと欠落がありました。お詫びするとともに、訂正いたします。

・P六(三段目)相互協力委員会(委員)欄に岡本知子さん(宮津市立図書館)が欠落

・P六(二段目)(誤)研修研究委員会↓(正)研修研究委員会

## 編集子

前任者から引き継いで初めて発行した会報第五十八号。お知らせのとおり、いきなりのミス。基本中の基本もできていない大失態です。委員一同、気持ちを引き締め取り組まなくてはと確認すると同時に、関係者の皆さんに深くお詫び申し上げます。これからも、より良い会報づくりに努めてまいりますので、皆様、御協力の程、よろしくお願いたします。